CONTENTS

# 第三章 明延鉱山 あけのべ

一般公開されている明延鉱山探検坑道(旧世谷通洞坑)

## 日本一の錫鉱山

奈良・東大寺の大仏鋳造の際に、明延産出の銅が使用されたと伝えられる歴史の古い鉱山です。

豊臣秀吉が支配し、江戸時代には江戸幕府の下で生野奉行所の所管になりました。

国内有数の銅山、銀山とし盛衰を繰り返し、明治新政府によって、明治5年（1872）に官営化。その後、明治29年に三菱に払い下げられました。

明治42年に錫鉱脈が発見されると、「日本一の錫の鉱山」として栄え、海外の最新技術を導入して近代化が促進されました。錫の産出量は全国の90%を誇ったといいます。

その他にも銅、鉛、亜鉛などの多鉱種を産出し、全国から「やま男」たちが集いました。

最盛期とされる昭和30年頃には従業員は1500人、職員住宅に暮らす所帯数は1200以上、人口も4000人を越えていました。

明延は鉱山町として栄え、鉱山が経営するスーパーや総合病院の他に、映画館や遊技場などの娯楽施設もあり、現代のニュータウンに匹敵するような都市が出現しました。

明延鉱山は、やがて世界的な鉱物の価格競争に巻き込まれます。円高によって採算性が合わなくなる

COLUMN

### 一円電車の体験乗車会

昭和60年まで鉱山従業員や一般人の通勤電車として、明延～神子畑間を運行していた一円電車。一円電車が走る姿を復活させようと、全国から寄せられた募金で、平成22年10月に手づくり線路「明延一円電車線」が有志の手によって開設されました。地元ではこの線路を使って、4～11月までの月1回(第1日曜)、定期運行を続けています。150メートルの手作り線路をガタゴトと走る姿は当時を思い出させてくれます。（問）あけのべ自然学校 079-668-0258

かつての明延鉱山 大仙粗砕場

在りし日の一円電車(出合付近／昭和60年頃)

明延鉱山探検坑道の入り口

明延鉱山探検坑道のガイド案内

あけのべ憩いの家横の「鉱山の里」の石碑

中、昭和62年（1987）3月、有望な鉱脈を残したまま、閉山となりました。

坑道の総延長は約550キロにも及び、平面的な広がりは約5キロ平方メートル、深さ約1000メートルまで掘り下げられています。

鉱山周辺の岩石は、約2億5千年前に、泥、火山灰、溶岩などが固まったもので、6000万年前の地殻変動で地層に多くの割れ目ができました。

その割れ目に沿って、錫、銅、亜鉛、タングステンなどを含んだ鉱液が地下深部より上昇し、鉱脈を形成しました。これを「熱水鉱床」と呼んでいます。

## 一円電車

昭和4年（1929）、明延鉱山と神子畑選鉱場までの約6キロを運行する「明神電車」が開通し、明延で採鉱された鉱石を運搬しました。昭和20年からは、鉱山従業員の通勤電車としても利用されました。

昭和24年に従業員運搬用に客車を付けるようになり、一般の乗客も運ぶようになりました。客車には「くろがね」「白金」「赤金」などの名前が付けられています。

昭和27年、1日の乗降数を数えやすくするために乗車料金が1円となり、「一円電車」の愛称で親しまれました。

平成19年（2007）公表の近代化産業遺産認定遺産リスト（経済産業省）において、「明神電車と蓄電池機関車」が選定されています。

## 明延鉱山探検坑道

明延鉱山探検坑道は、鉱山閉山後、旧世谷通洞坑の一部を明延鉱業（株）が青少年の鉱山学習施設として整備しました。近代鉱山の姿を残す貴重な産業遺産として、現在は養父市が管理運営を行っています。

探検坑道の総延長は650メートル。坑内には閉山まで使用していた大寿立坑跡、車両系鉱山機械、削岩機、1トン鉱車などが、当時と同じ姿で展示、公開されています。

WALK MAP

# 明延 あけのべMAP

2 明延鉱山産出の銅で造られた梵鐘が残る両松寺。文禄5年（1596）の銘文が刻まれている。余韻が他の鐘とは違うそうだ。

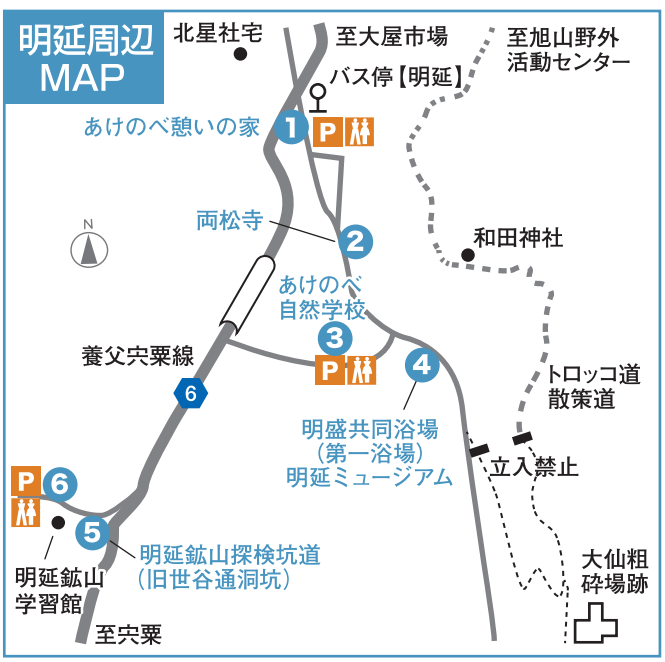
両松寺

明延鉱山から朝来市の神子畑選鉱場までの約6キロの区間を運行していた「明神電車」。昭和20年に鉱山従業員の通勤用として運行を開始した。あけのべ憩いの家の前には「白金号」が展示されている。

1 あけのべ憩いの家・一円電車「白金号」

土地を少しでも有効利用するため、せり出すように家が建てられている。

左官職人の心意気が伝わるタバコ屋さんの看板。龍の口からはかれた炎が文字に！！



# 探検坑道の見どころ

**全坑道の総延長は約550km！東京～大阪間の東海道新幹線に匹敵する長さ**

## 大寿立坑

明延鉱山には立坑(エレベーター)が7カ所あり、坑道見学ではこの「大寿立坑」だけが公開されている。昇降距離は約420mで、人員昇降の場合は分速150m、鉱車や資材は分速300mもの速さで運搬していた。2階建てで、上下段8人ずつ計16人が1度に乗ることができた。

坑内用ダンプトラック(左)
ロードホールダンプ(右)

## 約20mの巨大鉱脈跡

約50年以前の採掘跡で、探検坑道一番の見所。鉱脈の良鉱部が巨大な空洞となっている。

## 昭和10年代の削岩風景

明延鉱山で最も機械化が進んだのは、昭和20～30年代。この頃導入された削岩機は閉山時まで使用された。末期にはロードホールダンプなどの大型の鉱山車両が多数導入された。分解して坑道の中に運び、地下で組み立てられた。

## 酒蔵「明壽蔵(めいじゅぐら)」

坑道内は年間平均13℃前後と一定であることから、養父市産「有機蛇紋岩米」を使用した純米吟醸酒「仙櫻(せんさくら)」・純米酒「明延(あけのべ)」の熟成にも利用されている。

## 明延鉱山探検坑道 - DATA -

**旧世谷通洞坑の一部を一般公開しています。探検坑道の総延長は650m。坑内には閉山まで使用していた大寿立坑跡、車両系鉱山機械、削岩機、1トン鉱車など、当時と同じ姿で展示、公開されています。**

**◆兵庫県養父市大屋町明延1184**

**◆大人・高校生1,200円、小・中学生600円**

**※坑道見学は事前予約(3日前まで)が必要です。**

**※4月～11月(第1)までの毎週日曜日は予約不要の「日曜見学会」を開催しています。**

**(問)あけのべ自然学校 079-668-0258(平日受付)**

## 当時のまま姿で…

当時のまま姿が保たれている探検坑道には、むき出しの地面や鉱車が走っていた線路、送風や圧縮空気を送る鉄パイプも残されている。

## ●近隣ガイド

### 道の駅 ようか但馬蔵

2012年11月に開通した北近畿豊岡道・八鹿氷ノ山ICに近い道の駅。蔵をイメージした外観と、地元の生産者から届く新鮮野菜が自慢！お食事処では名物「季節のおこわとおばんざい」を始め、「蛇紋岩米」や「八鹿豚」などの特産品を使った料理が楽しめます。すぐそばには「とがやま温泉 天女の湯」があり、疲れをゆったりと癒すことができます。

**[所] 兵庫県養父市八鹿町高柳241-1**
**[時] 食事処11時～18時30分／土産処9～19時／野菜蔵9～19時**
**[休] 無休 [問] 079-662-3200**

### おおやアート村 BIG LABO

廃校となった高校の校舎を再利用。木彫、木工、書、絵画、陶芸、染織、さをり織などの手づくり体験が楽しめる木造校舎や、体育館を改装したギャラリーなどがあります。講師は地元の芸術家であり、のんびりした空間で、つくって、まなんで、たのしいアートの実験が楽しめます。

**[所] 兵庫県養父市大屋町加保7**
**[時] 9～17時(入場は16時30分まで)**
**[料] ギャラリー入場料：大人300円、中学生以下150円**
**[休] 水曜(祝日の場合はその翌日)**
**[問] 079-669-2449**

### あゆ公園・おおや農村公園

あゆ特定漁場の大屋川近くにある水と魚の体験公園。魚のつかみ取り、釣りなどができます。つかまえた魚や釣った魚は川のほとりの「川の家」でバーベキューや塩焼きにして食べることができます。また、すぐ近くにあるおおや農村公園はコテージ、体験工房などがあります。

**[所] 兵庫県養父市大屋町加保582**
**[問] 079-669-1822**

### 若杉高原(温泉)

若杉高原では夏でもウインタースポーツを楽しめる！スキー、スノーボードでジャンプするBAGJUMPとウォータージャンプ。その他サマーゲレンデ、キャンプ場、ドッグランなど、自然あふれる高原でめいっぱい楽しめます！場内に温泉もあります。

**[所] 兵庫県養父市大屋町若杉99-2**
**◎若杉高原温泉**
**[時] ホームページにて確認**
**[休] 夏季は土日祝日のみ営業**
**※冬季の営業はHPで確認を。**
**[料]大人600円、小学生以下400円**
**[問] 079-669-1576**